

足 監 査 第 4 1 号

令和4(2022)年10月12日

足利市小俣財産区管理者

足利市長 早 川 尚 秀 様

足利市監査委員 岡 本 篤 典

足利市監査委員 岡 部 記 和

足利市監査委員 齋 藤 昌 之

令和3(2021)年度足利市小俣財産区特別会計歳入歳出決算審査
意見について

地方自治法第233条第2項の規定により審査に付された令和3(2021)年度足利市小俣財産区特別会計歳入歳出決算を審査したので、その結果について、次のとおり意見を提出します。

令和3(2021)年度足利市小俣財産区特別会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象

令和3(2021)年度足利市小俣財産区特別会計歳入歳出決算

第2 審査の期間

令和4(2022)年9月7日から令和4(2022)年10月5日まで

第3 審査の方法

審査は、足利市監査基準に準拠し、管理者から審査に付された令和3(2021)年度足利市小俣財産区特別会計歳入歳出決算その他関係書類と会計管理者及び担当部課が所管する諸帳簿等を照合し、計数の確認を行ったほか、事務事業及び予算の執行状況等について関係職員からの説明を聴取して実施しました。

第4 審査の結果

審査に付された歳入歳出決算書及び附属書類は、前記の方法で審査した限り重要な点において、いずれも関係法令に適合し、かつ、計数も関係諸帳簿と符合し正確であり、予算の執行もおおむね良好であると認められました。

なお、歳入歳出差引残高は、出納閉鎖日現在における指定金融機関等の預金現在高証明書と一致し、正確であることを確認しました。

- (注)・ 本文及び表中の金額は、原則として百の位を四捨五入し、千円単位としました。このため、合計額と内訳の計が一致しない場合や決算書と一致しない場合があります。
- また、前年度対比は、原則として、千円単位の数値で比較しました。
- ・ 比率(%)は、原則として小数点以下第 2 位を四捨五入しました。このため、内訳の合計が 100.0 とならない場合があります。
 - ・ ポイントとは、百分率(%)を比較した場合の単純差引数値です。

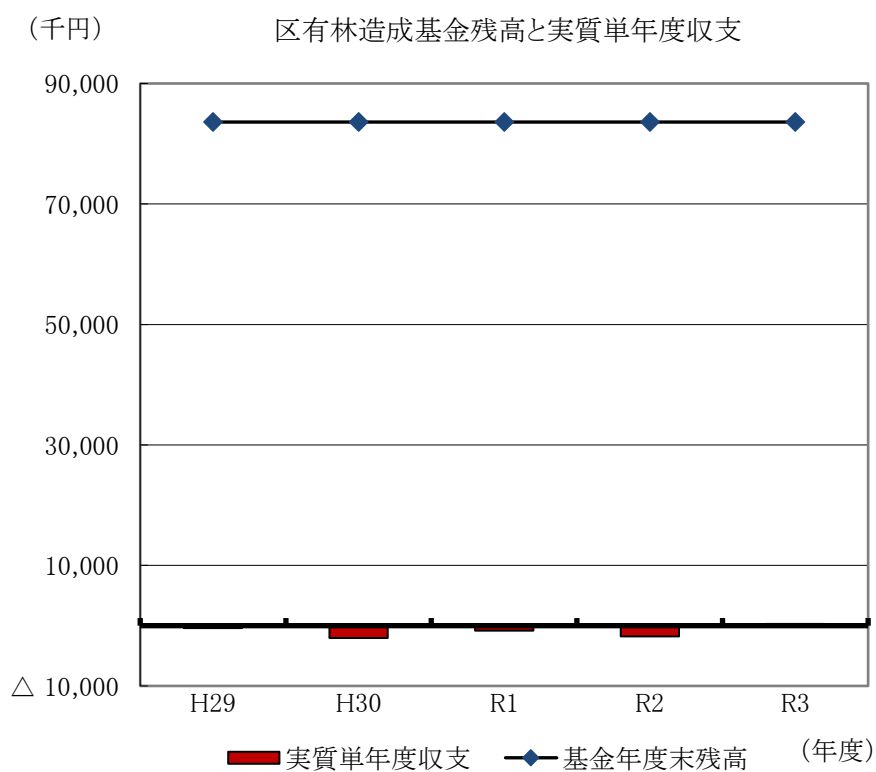
第5 審査の概要

1 財政運営の状況

当年度の財政運営の状況をみると、歳入は 4,174 千円で、前年度に比べて減少し、歳出は 3,373 千円で、前年度に比べて減少しています。

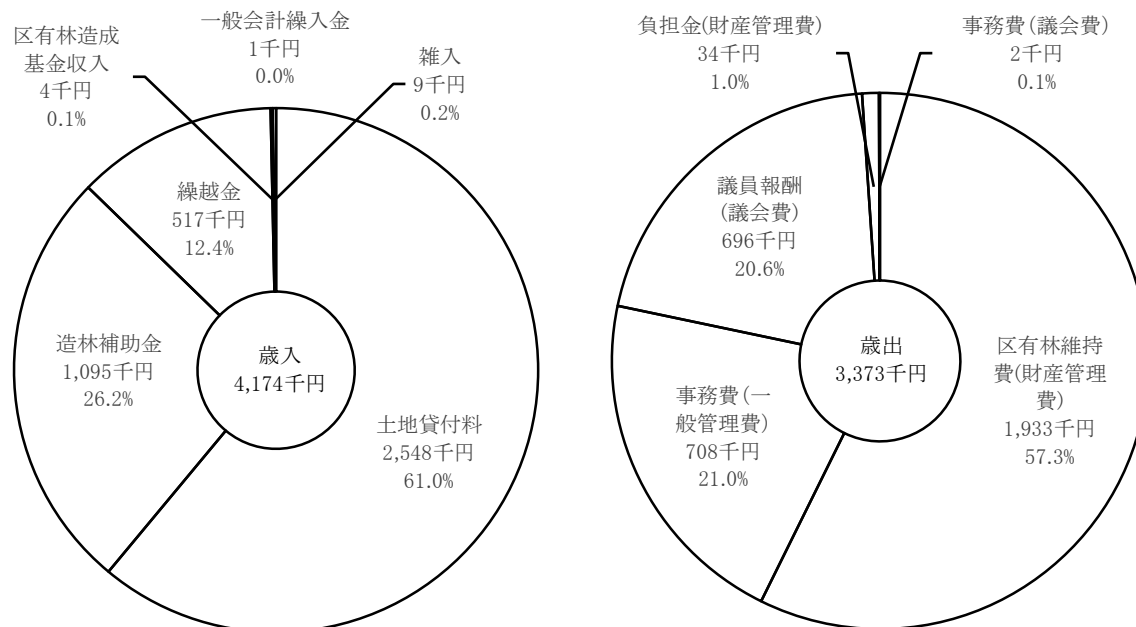
歳入の構成は、主に土地貸付料 2,548 千円、造林補助金 1,095 千円、繰越金 517 千円となっており、歳出の構成は、主に区有林維持費(財産管理費)1,932 千円、事務費(一般管理費)708 千円、議員報酬(議会費)696 千円となっています。

財政収支をみると、歳入歳出差引額 801 千円から前年度繰越金 517 千円を差し引いた単年度収支は 284 千円の黒字となり、基金の積立や取崩しを行わなかったため、実質単年度収支も 284 千円の黒字となっています。



2 歳入、歳出

当年度の歳入歳出決算の構成比率は、次のとおりです。



(1) 歳入

(単位 千円・%・ポイント)

区分 年度	予算現額	調定額	収入済額	収入未済額	収入率	
					対予算	対調定
R3	6,700	4,181	4,174	7	62.3	99.8
R2	6,900	6,104	6,067	37	87.9	99.4
比較増減	△ 200	△ 1,923	△ 1,893	△ 30	△ 25.6	0.4
増減率	△ 2.9	△ 31.5	△ 31.2	△ 81.1	-	-

歳入決算額は、前年度に比べて減少しています。

これは、主に土地貸付料が60千円増加したものの、繰越金が1,787千円、造林補助金が133千円減少したことによるものです。

調定に対する収入歩合は99.8%、収入未済額は7千円で、その内訳は、土地貸付料です。

収入の事務処理はおおむね適正に行われていますが、期限内の徴収に努めてください。

(2) 歳 出

(単位 千円・%・ポイント)

区分 年度	予算現額	支出済額	不用額	執行率
R3	6,700	3,373	3,327	50.3
R2	6,900	5,550	1,350	80.4
比較増減	△ 200	△ 2,177	1,977	△ 30.1
増減率	△ 2.9	△ 39.2	146.4	-

歳出決算額は、前年度に比べて減少しています。

これは、主に工事請負費(財産管理費)が 1,595 千円、負担金、補助及び交付金(一般管理費)が 492 千円減少したことによるものです。

不用額は 3,327 千円で、その主なものは、工事請負費(財産管理費)1,301 千円、同委託料 1,168 千円、負担金、補助及び交付金(一般管理費)567 千円です。

なお、予算現額に対する執行率は、前年度に比べて減少しています。

支出の事務処理は、おおむね適正に行われていました。

3 財産の管理

土地は、441,798 m²で、当年度中の増減はありませんでした。

立木の推定蓄積量については、当年度中に所有 17 m³の成長により、年度末現在高は 2,630 m³となっています。

区有林造成基金は、当年度中の増減はなく、年度末現在高が 83,600 千円となっています。

財産の管理については、おおむね適正に行われていました。

第6 意 見

財産区は、地方自治法第 294 条により、その設置が規定され、所有する財産又は公の施設の管理及び処分を主たる目的とし、その実施にあたっては、住民の福祉の増進に寄与するとともに、地区と市との一体性を損なわないように努めることが求められています。

小俣財産区においては、実質単年度収支の赤字が続いていましたが、当年度は改善し、黒字となりました。引き続き歳出等の削減を計画的に進め、収支の改善に努めるよう要望します。

また、当初予算と決算に乖離が見られることから、予算編成にあたっては十分な精査を行い、過不足のない予算計上をお願いします。

昭和 37(1962)年に小俣財産区が設置されてから半世紀以上が経過し、社会・経済情勢は当時から大きく様変わりしており、区有財産の主体を成す森林は、木材生産機能のみならず、自然環境や国土の保全等、様々な機能が重要視されています。樹木の安全面での管理も含め、郷土の貴重な緑を護るためにも、財産区のあるべき姿(将来)について検討を望みます。